



春爛漫。満開の桜が12名の新入生を温かく迎えました。希望に満ちたはじまりの日の喜びの声がたくさん届きました。今年度第1号の横浜シュタイナー学園ニューズレターをお届けいたします。

入学式 4月5日(土) ~『はじまりの日に』~

今年は桜が遅く、花びらのシャワーに迎えられながら入学式を迎えました。子供も大人も嬉しさの中に緊張を交えながらの当日でしたが、一步学園に踏み入るととても温かい気持ちになり、式のスタートを切りました。静かなお式でしたが、親も、この人々と9年間を共にしていくのだという決意と興奮を胸にしました。

それぞれの子供が何か使命とテーマを持って生まれてきていると思いますが、長い9年間の間にお互いを尊重し、知恵と愛を出し合っってそれぞれの人生を応援していける関係が出来たら素晴らしいと思います。

9年間の間には思春期も到来し様々なことがあると思いますが、一見マイナスに見えることにも、必ずプラスがあります。幸か不幸かは起こった出来事がきめるのではない、その人の心が決めるのだと思います。

こちらで学んだ知恵を駆使し、まずは見方を変え行動してみる、そんな生きる力を使って、その人なりの「生きる喜び」を大いにつかみ取って行ってくださいと願っております。(新入生保護者 森 多恵)

こんなに、祝福と喜びにあふれた入学式に、参加したのは初めての事です。まず隅田先生からのお祝いの言葉(学園にとって入学式は、誕生日のよう)に、どんな想いで受け入れてくださっているのかを感じ、胸がいっぱいになりました。そして担任の西尾先生と、1年生の対面の瞬間。1人ひとりの名を大切に呼び、うけとめていく先生と、応え、みちびかれていく1年生の姿。参加者全員で「おひさまのうた」を歌い、「出発するのです」の詩を贈り、出発していく西尾先生と1年生の姿。進行の先生のことは、一つひとつの瞬間に心がふるえたことを、私は生涯忘れないと思います。回想しては涙がこぼれます。今、思えば、事前のオリエンテーションにて、1年生の担任の先生を紹介していただき、私たち保護者は、西尾先生のお人柄と志を十分に感じ、わが子が一番最初に受ける学びを喜びをもって体験させていただいていました。もう、既にあの日から「入学式」は、はじまっていたのです。式の中で、西尾先生が、1人ひとり子どもたちの名を呼び、

保護者は先生のもとに、わが子を送りだしたあのとき、私は西尾先生のフィールドにしっかり繋がっていました。安心して喜びいっぱい、子どもを送り出しました。すべてに意味があり、細やかな意図を感じます。

入学して2週間。毎朝、息子は喜びにあふれて教室に入ります。そして私は、頼もしい息子の後ろ姿を見送り、西尾先生から『いってきます。』と、瞳をあわせて伝えてくださる瞬間に、いつも、あの「出発するのです」の詩を想います。西尾先生と12名のこどもたちの航海に、必要なことが必要なタイミングで起こり、そして皆で乗り越えることができますように。

私は、横浜シュタイナー学園が大好きです。学園を通じて「家族」となれたことに心から感謝しています。

(新入生保護者 坂田 美雪)

つい数週間前までは、慣れない場所や人の中では、私のそばから頑なに離れなかった息子。遅咲きの桜のアーチを抜けて迎えた入学式の日、西尾先生に名前を呼ばれて、ひとりで、しっかりと皆の前へ歩いていきました。

たったそれだけのことで、子供がどれだけこの日を心待ちにしていたかがわかったような気がしました。帰宅しては、新しいお友達の名前をひとつひとつ、最初は名前から、今ではフルネームで、うれしそうに指折り数えています。まるでそれこそが宝物であるというように。

1年生になるということが、子供にとってこんなに誇らしいことなのだと、親として初めて実感した1日でした。(新入生保護者 石倉 義子)



クラス劇『ガリレオ』を終えて（9年生）

9年生は、8年生の2学期から準備を始めたクラス劇「ガリレオ」（ベルトルト・ブレヒト作）を4月11・12・13日の3日間、計4回の公演で合計250人ほどのお客様に観て頂きました。担任の私が演目が決まる前から、「私たちのクラス劇は十日市場校舎のオイリュトミー室でやる。」と決めたことからクラスの保護者には客席作りをお願いし、舞台は自分たちで作る事になりました。「公会堂のような普通の劇場でやりたかった。」という声も最初は聞かれましたが、終わってみればみんなで作った劇場でこの劇を上演できたことはとても幸せな体験でした。子どもたちが舞台上で稽古をしているのを横目で見ながら保護者が客席のアレンジを考えたり座布団を並べたり、時には1人分の座席の広さを見るために子どもたちに座ってもらったりということもあり、子どもも親も同じスタッフになれたことが裏を固める上でとても役に立ちました。



私は演劇については全くの素人です。観劇に行った体験もそれほど多くはありません。でも、「クラス劇では観客を感動させたい。」という思いが強くありました。そして「この子たちならそれができる。」というぼんやりした確信もありました。演劇に詳しい方々にはことごとく「ブレヒトを中学生が?!」と驚かれましたが、生徒たちは14歳の感性で物語の中に入り、自分の役をその役になりきって演じました。まだ体験したことのない感情を一生懸命表現しました。その一生懸命さが観客の心をつかみ、感動を呼んだのだと思います。



クラス劇作りを通して、彼らは登場人物の人柄や心の動きを深く考え、一つ一つの台詞にその心の動きが表れる努力をしました。大道具・小道具を工夫して作りました。作曲し演奏し歌い踊りました。足踏みミシンを踏んでたくさんの衣裳を縫いました。チラシを作り、招待状を書き、プログラムも作製しました。会場を作り、後片付けもし、初めと終わりを責任をもって引き受けました。たくさんの喝采やお褒めの言葉をいただきました。そして、彼らの前で泣いたことのない私を泣かせました。



そんな熱い週末を体験し、代休を挟んで登校した15日の火曜日、彼らの関心は既に6月の学園祭をどうアレンジするかに関心を移していました。成長している人々の未来へ向かう力の潔さ、清々しさに圧倒されました。「凄いい子たちですねえ!」のお褒めの言葉に私は迷わず「でしょう!」と応えたいです。

(9年生担任 神田 昌実)



春祭り 4月21日(月)

4月21日(月)、春まつりが行なわれました。あいにくこの日の空は雨模様。毎年校庭で集っていましたが、今年は霧が丘校舎内での開催となりました。1年生は5年生に手を引かれ、上級生たちが教室に隠した宝物(手仕事の時間に1年生のためにつくったウサギや鳥、ヒヨコです)を探しました。

その後オイリュトミー室で歌をうたい、保護者が焼

いた小鳥をかたどったパンを食べ、春の訪れを喜び合いました。雨など吹き飛ばしてしまうような子どもたちの笑顔が印象的だった春まつり。準備に携わった保護者の方が感想を寄せてくれました。

小雨の降る朝でした。校舎内にて祝う、春祭りです。階段の下に立ち、上階の様子をうかがいます。子どもたちに、小鳥パンを届けるために。灰色の、静かな朝でした。

やがて賑やかな声がして、みながオイリュトミー室へ移動したことがわかります。お手伝いのお母さんたちと、籠を持って向かいます。子どもたちは歌を歌って歩いていました。1年生の手を、5年生がつかないでいます。きれいな歌が響いていました。

印象に残ったのは、大きな子たちの様子です。手をつないだ1年生に、女の子たちは勿論のこと、男の子たちの優しかったこと！パン籠の前になると、背をグンとかがめて1年生に声をかけます、「1つ取ってごらん。どれでも、好きなもの取っていいんだよ」。すごく優しい声で、でもはっきりと、小さな子を導きます。普段見かける、弾けるような強い姿とは違います。挨拶を返してくれる時の、低い声とも違います。彼らの中にある、こんなに柔らかい優しさ。そのバランス。1年生たちは安心して、手をひいてもらっています。

前日に一生懸命つくった小鳥たちの中には、びっくりするほど首のながーいものもできてしまって、まあどうしよう…。とっていました。でもどの子もみな嬉しそうに1つを手にとって、その様子を見ているうち、小鳥パンの魔法は、形ではないと思いはじめます。それぞれの出来を笑いながら差し出してくださるパンには、お母さんたちの手から移った魔法がかかっているのかもしれませんが。今年は小鳥パンの担当学年でした。けれども何人もの方が学年を超えて、手を差し伸べてくださいました。ご協力くださった方たちに、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。
(3,6年生保護者 志村なお子)



「アースデイ東京 2014」出展報告

4月19日、20日の2日間、雨が降りそうな空の下、それでもなんとかお天気は持ち越し、代々木公園で開催された「アースデイ東京 2014」に NPO 法人横浜シュタイナー学園として無事に初出展しました。学園を広く多くの人に知ってもらいたいという想いと同時に、シュタイナー教育で育った子どもたちがいかに自己肯定感を持ち、自分や他者、そして地球に対して喜びや希望を持っているかを伝えたいという想いがありました。

初日に行ったトークステージでは卒業生の保護者でもある宮崎ますみさんに司会をしていただき、長井先生（第1期生担任）と卒業したばかりの第1期生6名が9年の学びについてトークを繰り広げました。例えば、子どもから「手仕事」の話が出れば、長井先生が学園では1年生から手仕事を大事にしているのだが、それはシュタイナーが100年も前から「手を使って人が美しいものを作るということが、自己教育にも繋がる」と言った事に依り、また人間は脳が発達していると言われてはいるが、その脳も手を使わないと有効に働かないのだ、というような話を展開し、司会の宮崎さんに促され子どもたち全員で手仕事の詩を唱える～というような、学園らしい空間でした。そしてやはり、どの子も堂々としていて、自分らしく立っているというのが、私たち学園に関わる者の誇りだと感じました。数こそ多くはありませんでしたが、真剣に耳を傾けて下さっていた聴衆の方々その後ブースの方へ来て下さり、熱心に教員と話をし帰っていかれた事はとても嬉しい出来事でした。

ブースには新しいパネルを展示し、小さな教室を設え、親子でできるワークショップ、スクールショップである「星の金貨」も設置し、来場者を迎えました。丹念に資料をみて下さる方、子育てを再確認するかのように想いを述べる方、教育について深く質問される方、今まで学園の催事では出会えなかった多くの方とご縁ができました。声が掠れるほど多くの方に学園や教育の説明をし続け、疲れたはずの先生方や保護者は、その新しい出会いにとっても感動し満足しているようでした。

今回、私たち学園公開グループは、学園として出展することを強く希望し、アースデイ実行委員会に入りました。同じ「子ども・子育て、女性」ゾーンの他団体との繋がりや仲間意識も生まれ、実りの多い機会となりました。来場者の方々、参加団体の方々、ここでの出会いがお互いにとって良きものとして次に繋がっていくことに期待したいと思います。そして出展に向けて関わってくださった全ての方々に心から感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。最後に、今回パネルを新調するにあたり、私たちはシュタイナー教育とはなんだろう？という話を何時間も重ねました。そして先生方に多くの質問を投げ、多くの答えを返していただきました。そのパネルはいつかどこかご覧いただければと思いますが、1つだけここに記しておきたいと思います。今年度も、1人でも多くの子どもがここ横浜シュタイナー学園で「世界は美しい」という喜びを持って学べますように！

「世界は美しい」

思考を行動につつす手仕事の授業

感情に訴えて学びを深める100分のエポック授業・・・

シュタイナー教育は、感情・意志・思考に働きかけながら芸術的体験を通して学ぶ

授業を通して子どもたちに一番伝えたいこと

「世界は美しい」ということ

(学園公開グループ 保護者 岩田英子・藤好千晶)

インフォメーション

公開講座「メルヘン論へようこそ！」

講師：入間カイ

日にち：6月17日(火) グリムの昔ばなしより
7月2日(水) 日本の昔ばなしより

時間：10:00~12:00

参加費：1回2,500円

場所：霧が丘校舎

出張講座「豊かに育つ子どもたちの話」

~7歳から15歳を共にした9年間の日々~

講師：長井麻美(第一期卒業生担任)

日時：6月1日(日) 9:20~11:40

場所：アートフォーラムあざみ野 セミナールーム2

参加費：1,000円

オープンデイ/学園祭

日にち：6月14日(土) 10:00~15:00

場所：**オープンデイ**…霧が丘校舎

現役教師による大教育展・相談室・

親子でできるワークショップ・軽食喫茶・

手作り品販売 等

学園祭…十日市場校舎

高学年の子どもたちによる企画・発表

※予約不要です。ご家族連れでお楽しみください。

☆スクールショップ星の金貨より☆

学園の各種イベントの際、開店しています。

どうぞお立ち寄りください。

お問い合わせ：e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

ブログ：<http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>

(星の金貨 寺島栄子)

茶話会/校内見学会

学園の雰囲気を感じていただけるこの機会に、
どうぞお訪ねください。

茶話会(水曜日)

日にち：4月23日・5月21日・6月18日・7月16日

時間：10:00~12:00

週末校内見学会(日曜日)

日時：5月25日・6月29日 10:00~12:00

参加費：無料

場所：霧が丘校舎

学園にご興味・ご関心のある方はどなたでもお越し
ください。お子様連れも可です。

※お子様の上履きはご持参ください

NPO会員 募集

横浜シュタイナー学園の活動趣旨に賛同していただける方
は、活動への参加、支援をぜひお願いします。NPOの会員に
はどなたでもご入会いただけます。

会員は総会や中間報告会へ参加いただける他、年10回発行の
ニューズレター最新号と紀要冊子をお送りします。

また、学園主催の各種催しに会員価格で参加できます。

<入会申し込み>詳細は学園事務局まで

寄付者のご報告(順不同・敬称略)

3/1~4/20

岩橋亜希菜、青葉シュタイナーこども園、加藤洋子、
なかがわ耳鼻咽喉科・福元晃、清水都、星の金貨、
伊藤純子、水野徳子、神ノ木クリニック・山本忍
☆皆様からの学園へのご寄付は大切に使用して
いただきます。ありがとうございました。

(事務局 寺島栄子)

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.com

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店(セーラー店)当座0130702

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第70号

2014年4月24日発行

編集：広報の会

発行：NPO法人横浜シュタイナー学園

<http://yokohama-steiner.com>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載はお断りします。